

飼料成分分析に基づく産卵率向上のための取組

1 対象

養鶏経営体 1 戸

2 背景

対象経営体では、採卵鶏約 1 万羽を飼養しており、食品製造副産物を利用した自家配合飼料を給与している。また、それらを特色としてほぼ全量鶏卵の直売を行っている。しかしながら産卵率が 65% と低迷し、改善のため農業改良普及課へ相談があった。そこで対象経営体への聞き取りの結果、給与飼料の見直しが必要だと考えられた。

3 活動の内容

対象経営体へ飼料設計内容について聞き取り調査を行った。また、農業総合試験場養鶏研究室と連携し、飼料成分分析を行った。分析結果を対象経営体と共有し、給与飼料の改善策の検討を行った。



図 1 対象経営体との検討の様子

4 活動の成果

飼料成分分析の結果、水分値が高く、エネルギーやタンパク質が不足していることが分かった。対象経営体では、ニンジンやキャベツ等の野菜くずやマグロのあらを飼料として利用しており、水分量が増加したことにより、栄養素が不足していると考えられた。

これらの結果について対象経営体と共有したところ、一部の鶏舎で試験的に給与量を 1.3 倍に増やし、産卵成績の比較を行うこととなった。試験の結果、追加給与を行った群は追加給与を行っていない群と比較し、産卵率が約 10% 高くなった(図 2)。また、追加給与で飼料費は増加したが、産卵率の向上により生産量および所得の向上が見込まれた。これらの結果を受け、対象経営体では今後全鶏舎で給与量を増やすこととなった。

しかしながら、依然として飼養管理マニュアルと比較し産卵率は低いため、今後も飼養管理方法の見直し等を通じて、産卵率向上のための支援を行っていく。

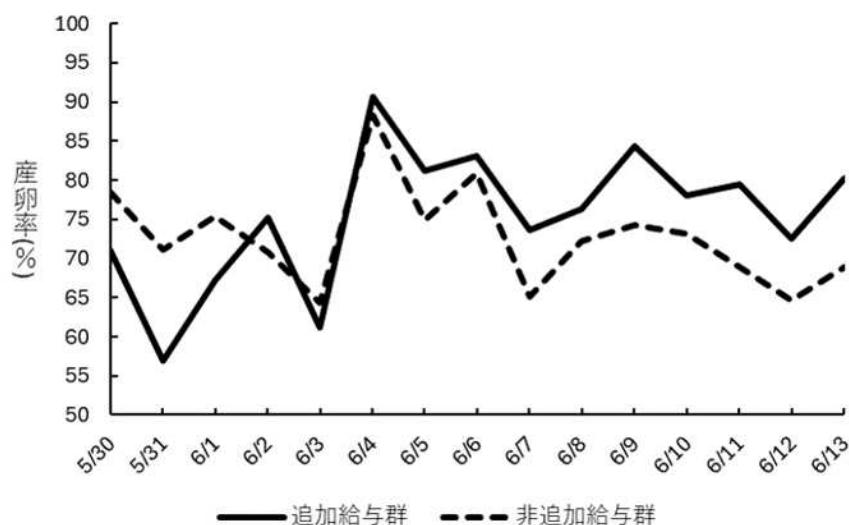


図 2 追加給与開始後産卵率